

法学部専門教育科目

政治理論(2単位) 担当者:法学部教授 河野 武司

■講義要綱

現代政治学における理論として、合理的選択の政治学の領域で展開されている様々な理論やモデルなどを紹介する。合理的選択とは自己の利益の最大化ということに他ならないが、このような基準で行動や選択を行うアクターを前提として政治現象を分析することの妥当性や、その意味について考える。

[第1回] イントロダクション

[第2回] 合理的選択とは何か

- ①利己心と最大化行動
- ②理想の政治(公益の追求)と合理的アクター(私益の追求)

[第3回] 合理的選択アプローチと公共選択論

- ①経済学者と政治学者の立場
- ②発展の歴史
→経済学帝国主義から政治学における一つのパラダイムに

[第4回] 合理的選択アプローチに対する批判

- ①満足化行動
- ②合理的な愚か者
- ③ベレストロイカ氏による告発

[第5回] 民主的な意思決定ルールは存在しない?

- ①投票のパラドックス
- ②一般不可能性定理

[第6回] 投票参加の合理的選択アプローチ

- ①期待効用モデル(投票参加の計算式)
- ②ミニマックス・リグレットモデル

[第7回] 集合行為の問題(1)

- ①社会的合理性と個人合理性の相克
→共有地の悲劇
- ②集団の規模と組織化

[第8回] 集合行為の問題(2)

- ③副産物理論
- ④政治的企業家論

[第9回] 代議制民主主義は機能しうるか(1)

- ①ダウنزの命題
→合理的無知と政策における反消費者・生産者支持の偏向
→民主主義は市民が合理的存在であるとするならば、機能しない

〔第10回〕代議制民主主義は機能しうるか(2)

②ウィットマンのフォーク

→民主主義は市民が合理的だから機能する

〔第11回〕代議制民主主義は機能しうるか(3)

③カプランの合理的な非合理性モデル

→民主主義は市民が非合理的(体系的なバイアスを持つ)だから機能しない

〔第12回〕総括

■テキスト

プリントを適宜配布する。

■参考文献

小田中直樹『ライブ・合理的選択論—投票行動のパラドクスから考える—』(勁草書房、2010年)

ブライアン・カプラン『選挙の経済学—投票者はなぜ愚策を選ぶのか—』(日経BP社、2009年)

コリン・ヘイ『政治はなぜ嫌われるのか—民主主義の取り戻し方—』(岩波書店、2012年)

■学生に対する受講上の要望、または受講上の前提条件

- ①特に教科書は指定しないので、授業には必ず出席して、自分のノートが最終的には教科書と同様のものとなるように、しっかりとノートテイクして欲しい。
- ②疑問点や確認した事項については、授業後ではなく、授業中に質問して欲しい。

■成績評価方法

最終日の試験による。

地域研究(ロシアの政治)(2単位) 担当者:法学部教授 横手 慎二
講師 中馬 瑞貴

■授業の概要

本講義では、地域研究と言う観点から比較の視点に立ってロシア政治を論じます。広大な国土、激動の歴史、改革を重ねる政治制度、独特の政治文化など、ロシア特有の要素を考慮しながら、現代のロシア政治を見る視点を学びます。

講義の内容

- 〔第1回〕ロシア地域研究とは
- 〔第2回〕ロシアを歴史的に比較する(1)帝政期のロシア
- 〔第3回〕ロシアを歴史的に比較する(2)ソ連期のロシア
- 〔第4回〕ロシアを制度的に比較する(1)ソ連崩壊と1993年憲法体制
- 〔第5回〕ロシアを制度的に比較する(2)大統領制と議会
- 〔第6回〕ロシアを制度的に比較する(3)選挙と政党
- 〔第7回〕ロシアを制度的に比較する(4)連邦制
- 〔第8回〕ロシアを地域で比較する(1)中央・地方関係
- 〔第9回〕ロシアを地域で比較する(2)旧ソ連諸国との関係
- 〔第10回〕ロシアを地域で比較する(3)欧米との関係
- 〔第11回〕ロシアを地域で比較する(4)アジアとの関係
- 〔第12回〕総括

■テキスト

横手慎二『ロシアの政治』(通信テキスト、2005年)

■参考文献

適宜お伝えする。

■受講上の要望

ロシア政治に関する本やロシアに言及した新聞・TVのニュースなどに目を通し、ロシアに対する関心を持っておいてほしい。

■評価方法

出席と最終日の試験によって評価いたします。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、法学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

心理学(専門)(2単位) 担当者:文学部准教授 川畑 秀明

経済学史(2単位) 担当者:経済学部教授 川俣 雅弘